

第 1 回 九戸村小中学校建設等整備委員会会議概要

平成 30 年 10 月 31 日 (水)

19 時 00 分～ 役場第 2 会議室

事務局

皆様お仕事でお疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から第 1 回九戸村小中学校建設等整備委員会を始めます。ご挨拶を申し上げます。

教育長

それぞれ月末の大変忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。第 1 回の九戸村の小中学校建設等整備委員会ということで開催をさせていただきました。それぞれの団体の代表の方々、そして公募委員ということで栗谷川さん、松本さんにもご応募いただき本当にありがとうございます。この整備委員会にあたりまして平成 28 年から検討委員会を立ち上げまして、本村の子どもたちにとって一番望ましい教育環境はどうあれば良いか、検討委員会で審議していただきまして答申をいただきました。それに基づきまして、教育委員会で基本計画案を住民の方々それぞれの団体に説明をし、今年の 8 月に基本計画を策定したところであります。

今の子どもたちの本村の状況と、それから国の教育の改革の流れ、それから未来といえますか、予想がつかないような自然環境の変化あるいは国際関係の変化と、その中で生き抜いていく子どもたちを育成していかなければならないのは私たちの責務だとそういうふうに思っております。よく私も村長も申しますけれども「未来とは今である」と、今を大切にすることが未来に繋がっていくということで考えております。基本計画等に基づいて平成 34 年の 4 月を目指して小中学校併設型小中一貫校に学校を開校すると考えております。そのためには、私たちが目指そうとする子どもたちにとってどういう学校、どういう施設設備が良いのか皆様からたくさんのご意見をいただきながら、今の子どもたちと将来の九戸中学校の既存の場所での施設一体型の小中学校で子どもたちを育て、そして村の将来を担う子どもたち、あるいは日本の国を背負う子どもたちを育てていきたいと考えております。今回の整備委員会に関しましては整備委員として盛岡短期大学の嶋野先生、盛岡市職員の上柿 信さんにお忙しいところ委員としてお受けいただきご指導いただきます。よろしく願いいたします。今日は第 1 回目ということで教育委員会の方からの考えを示す時間が多いかと思いますがよろしく願いいたします。

事務局

議題に入ります前に 1 回目の顔合わせということで、軽く自己紹介いただければと思います。

～自己紹介～

事務局

自己紹介も終わりましたので、それでは次第に沿って進めさせていただきます。
はじめに、望ましい教育環境基本計画の概要について事務局より説明いたします。

事務局

それでは、望ましい教育環境基本計画ということで皆様のお手元に資料を配布しております。計画について簡単に説明いたしますので、グリーンのパフレットをご覧いただきたいと思っております。基本ということで、生きる力を身につけた九戸村の子どもたちの育成をめざしてということで、生きる力を身につけた九戸村の子どもたちの未来像ということで、ふるさと九戸を思い、夢に向かって羽ばたく人ということにさせていただいております。そして、1つ目として自ら考え、ともに学び高め合う子、2つ目として人を大切にして想像力が豊かな子、3つ目として自ら健康でたくましい心を育む子、ということで3点、知・徳・体の優れた子どもに育てほしいというイメージでございます。そして、基本的な考え方として5点ほど挙げさせていただきました。そしてこの目標に向かって教育環境を整備するということで学校の適正規模につきましては、村内1校に再編し10～12学級規模にする、1学級あたりの人数を最低18～20人程度にしたい、また適正配置につきましては通学距離概ね4km以内、通学時間として1時間以内、そして通学方法としてスクールバスを利用するというところでございます。そして今の再編に伴いまして小中一貫教育を導入したい、九戸村の教育の課題となっております5つの課題として中一ギャップの解消、特別支援教育の充実、3つ目として学力保障、質の高い授業、4つ目として教職員間の相互連携、5つ目として外国語教育の充実を挙げさせていただきました。これらのことを踏まえまして、村内地域とともに140年を越える長い歴史を刻んできました5つの小学校を閉校し、九戸中学校敷地内に小学校、中学校を両方建設する。小中一貫教育の施設一体型の学校配置を検討するというところでございます。そして皆様に今後検討いただくということで、九戸中学校敷地内におきまして施設一体型小中学校を建設するというので、様々な、どのような構造なり、設備等についてご意見を頂戴したいということでございます。よろしく願いいたします。

事務局

基本計画の概要について簡単に説明いたしました。次に(2)組織の確立についてということですが、委員長、副委員長を委員の皆様の互選で選出するというように決めておりましたが、どのようにして決めたらよろしいか皆さんにお諮りしたいと思います。

委員

教授がいいのではないかと私は思いますが。

事務局

教授、よろしく願いします。

委員

はい。

事務局

副委員長につきましても互選でございますので、どなたか推薦していただければと思います。

委員

確認ですけれども、この委員会は大体何人ぐらいを予定しているのか。というのは任期がございまして。

事務局

基本計画案の方針が固まるまでということですので、半年ぐらいではないかなというふう
にこちらでは想定しております。

委員

34年までということですか。

事務局

方針が出れば基本計画が出ますので。

委員

決まり次第解散するということですか。

事務局

そのように考えております。

委員

小学校の保護者さんが入っていないようなのですが。

委員

山根小学校です。

委員

お1人ですか。

事務局

保育園、小学校、中学校と。

委員

最近、女の人の意見をもっと取り入れなければならないということで、国会とかでも色々大臣とかになっていますけれども、お母さんたちがやっぱり子どもたちのお世話なりするので女の人をやっぱり、役職をやっている PTA の方々は大体男の人なのですが、女の人の意見もやっぱり入れた方がいいと思うのですがどうでしょうか。

事務局

ハード建物の部分ですか。

委員

ハードだけれども色々な意見をやっぱり例えば、道路を女の人にも通るわけです。ここが不便だと女の人の意見も道路を使えば意見はあると思うのでやっぱり入れるべきだと思いますが。女性を参加させた方が、例えばあと 2 人ぐらいでも。男の人だけの意見ではやっぱり偏ってしまうことがあるのではないですか。

事務局

ひめぼたるの園長先生から女の人を代表していかがですか。

委員

〇〇先生はいらっしゃるのですけれども、やはり一般の保護者の方から入ってもらうというのはどうですか。保育園、小学校、中学校とおられるのですが、保育園、小学校、中学校で、女の方を 1 人ずついれていただければ、いい意見がそれなりに皆さんあると思うので、出ると思うのですが提案ですがいかがですか。

委員

入れるか入れないかを今ここで決めましょう。私は必要だと思います。これからはやっぱり女性の意見が必要だと思います。

事務局

設置要綱をつくるために教育委員会議を開きまして、教育委員会議の中でこの設置要項を決定したことであります。それで女性の意見ということにつきましてはこれからワークショップ等も開いていきますので、その中で住民の方からの意見をいただきたいなとそう思っております。

委員

基本的な意見というのはここで決まるわけですね。ワークショップというのはそこで意見を出して、反映されるのですか。

事務局

反映するようなかたちにしていきたいと考えております。

事務局

よろしいですか。

委員

入れてもらいたい。私は。

事務局

皆さんいかがですか。やってくれる方がいらっしゃれば。

委員

委員が 15 名以内なので、その枠の中で公募では。

委員

公募は 2 人だけだったから。

事務局

村 P 連で誰か女性の委員の方は。結局うちの方でも男性と絞ったわけではなくて、委員がそろったら入っていなかった。

委員

母親委員から選出するというのはいかがでしょうか。

委員

一任してはいかがでしょうか。小中保育園の会長さんなり、一任して一人ずつ女性を入れるというのは。

事務局

小中の母親委員の方々から選んでいただくという方法で進んでということで皆様よろしいでしょうか。

事務局

ご意見をいただいたところでありがとうございます。設置要綱については教育委員会議等を開いて、その設置要綱を決定したところでもありますので、ここの意見を持ってすぐ女性の委員を入れるということではなくて、それにつきましては女性の方々の意見が反映されるようなかたちをこちらとしては、考えたうえで提案させていただくということではいかがでしょうか。

事務局

役員の方々にお出でいただいておりますので、PTAの役員の方々のなかで女性の方も入ったうえでのお話の場を持てればいいのかなど、考えます。

委員

これ以上委員は増やさないということですか。委員に地盤というか土木関係者も1人いた方がいいのではないかなとは思ったのですが、それもやはり同じような意見ですか。

事務局

はい、そうです。

事務局

副会長の互選ということで皆さんから意見を頂戴したいと思います。

委員

事務局案はありますか。

事務局

副委員長には九戸村校長会の会長さんをお願いしたいと考えておりましたが、皆さんいかがでしょうか。

事務局

校長会の会長であります江刺家小学校高橋校長先生に副委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、嶋野教授進行をお願いいたします。

委員長

委員長ということできつと皆さんのお話し合いがスムーズに進めるように議長として進めて参りたいと思います。今日は盛岡市の多くの学校の建築に係わっていただいた委員にお出でいただいております。今までの経験をお話していただいて、皆さんの学校をその設備に関する知識というかを考えていただければ良いのではないかなというふうに思っております。

委員

私も九戸出身で江刺家小学校、江刺家中学校を終わって15までしかいなかったのですが、その後村から出ましたので、教育長さんの方からお声が掛かりまして今までの経験をとってお話がありました。なるべく貢献したいと思っております。今現在は建築住宅課の方にお世話になっております。平成17年～平成24年まで盛岡市の教育委員会の総務課のほうで8年間お世話になりました。仕事の方は盛岡市の小中学校当時は70校ぐらいあったのですが、学校施設の維持管理とか計画等の仕事を建築技師として携わってきました。平成23年には震災

があってその時を挟んでの総務課でしたけれども、その中で学校施設の整備で印象に残ることということでお話をさせていただきたいと思います。1 つは当時盛岡市では校舎の耐震を進めておりました。平成 17 年の頃耐震性のないものについては耐震化していこうと、学校数も学校数ですのでいわゆる耐震性のないものという I s 値といいますけれども、それが低いものから順にやっていこうということで、当時は学校名を上げますと順番からすると厨川中学校、今の IGR の青山駅の方にありますけれども、そこから耐震性を求めて改築の工事をしておりました。それが平成 22 年です。そして実はその時震災を受けまして、内陸では 1 校それこそ震災を受けました。中に入ると校舎が、柱が傾いている状態で授業がこれは無理でした。本来ならば改築してそこを使う予定でしたがその前に震災を受けまして使えないという所がありました。厨川中学校の生徒たちをどうしようかということで、当時大規模校で 700 人ぐらいいたのではないのでしょうか、教育委員会としてはいずれ既存の建物を使うということは、大きな地震がその後もありましたのでその学校自体使えないということで、中学校 1 年 2 年の方たちは近くの小学校を借りて授業を受けようということで分けていたのですが、さすがにやはり 1 年間大変だったようです。学校、保護者さんの方から何とか早く学校をつくってくれと、ただ校舎は建てているのですが当時それこそ人手不足、そして資材を建設業者が発注した時期に塩釜に保管していたらしいのですが全部流されてしまいました。それで 3 ヶ月間ぐらいはほとんど仕事はなし、その建設工事については。その中で保護者さんたちからはそういう事情はあるけれども何とか 1 年、23 年度に出来ないのかなというふうなことを教育委員会でいろいろやったのが思い出されます。最終的には 4 階建てなのですが、その年度に 2 階まで作ってもらうことにし、建設業者に話をして 2 階まで使って、1 年生から 3 年生までそこで授業を受けていただいたというのが、今でも学校建設をやっている平成 23 年の時が思い出されます。いずれ分けてやるのはよくないなという当時は分かったのですが、そういう事情もあってということで、平成 24 年、25 年にはもう 4 階まで建ってかなり大きな建物になって校庭も整備されてかなり教育環境は良くなったなど見ております。もう 1 校は盛岡市の教育委員会で件案事項だったのが大規模校の解消ということで、当時西南開発の中にイオンさんがあるのですが、あちらの方でももともとは本宮小学校があるのですが、1,000 人規模の学校になって西南開発も始まって大規模学校を解消しようということで新設校をつくろうということで今から十年ぐらい前です。平成 20 年から動き始めました。当初は西南開発をしたのですが、就学前の子どもさんが実はいなかったのですが、一気に伸びました。私が担当した平成 20 年までは 2 教室、12 クラスぐらいを目標にしたのですが、その当時はその数いなかったということで、平成 21 年に補助申請する時にある程度学級数を申請しなければならないのですが、当時、西南開発の張り付き具合からすると 15 学級にはなるだろうということでした。実は補助申請をする時に就学前の子どもさんの統計を取りましたところ 12 学級しかいない、設計は出来上がっているということで 3 学級減らさなければならないということになり、建設の直前に図面を書き換えました。3 クラス分をなくして、設計図面を書いたというのがさらに苦労したなというふうなところでした。その後はかなり西南地区の南イオンのあたりは子どもさんたちが増えて現在は多分 20、30 学級近く、増築をしているようですが、新設校でまたそういう悩みがあるなと思います。共通して言えるのはそういうふうな学校を建てて私たちが後から授業なんかを観に行くのですが元気でやっているところ

ろをみると、環境を整備してよかったなというふうな印象を受けて、いつもモチベーションが高くなり、必要性を感じております。8年間盛岡市の学校を整備しておりましたけれども、今回九戸村の整備にあたって少しでもお役に立てればなと思っております。よろしく願います。

委員長

ポイントとしましては、小中一貫そういったところが大きなポイントになっていると思います。ですから小学部の小さい子どもから、体からすれば大体大人と同じような子どもたちが同じ環境の中で育っていくということがポイントになっています。それから今色々と少子化が進んできております。ですから少子化に向けて使い勝手のいいみんな集約するということ、そして私の専門は特別支援教育が専門でありまして、いろんな個性を持ったお子さんたちが最近が増えてきているということもあります。ですから、一斉指導で出来れば本当は問題ないのですが、ただそういうお子さんだけではないという状況も最近がございます。今全体、全国的に教育改革が進んできております。その教育の大きな流れの中で小中一貫ということも出てきて、そしてこの九戸村もそれに準じたかたちで進めていくというふうな大きな流れになっております。私は花巻市の方のこういった会議の方も委員長として出席させていただいております。岩手県もここだけに限らずにあと数年たちますと改革というか、そういうことを各地域で精力的に進めていくということになってくるのではと思っております。あとは国際化ということもありますし自然災害ということも最近大きくクローズアップされております。防災機能を備えているとかそういったことも含めて、新しくつくる建築それから施設、設備どういったかたちにしていくのが一番いいのかを色々議論していければいいのではないかなというふうに思っております。そのための素案と、整備委員会の事務局の方から提案させていただきたいということですので、事務局の方のご説明をお願いしたいと思います。

事務局

それでは皆様の方に A3判の横長の資料配布しておりますのでご覧いただきたいと思えます。九戸村小中学校建設等整備方針案ということで先程説明いたしました、生きる力を身につけた九戸村の子どもたちの将来像ということでこれに向かって、これを叶えるためにどのような施設がいいかということで下の方の整備方針、基本構造ということでコンセプトというかたちで4項目に分けさせていただいております。充実した学びを支える場、豊かな心の共生を支える場、安全で健康増進を考える場、小中一貫校の教育機能を支える場というように4つに分けさせていただきました。ただこの4つの分け方についても例えばどの項目に該当するかという難しい表現だと思います。例えば、皆様の資料を1枚めくってもらいまして、例えば②の例ということでこれは各それぞれの自治体がモデルとしたものを6つの例を挙げております。その中で②の例ということで簡単なコンセプトのようなかたちで出している地域もあります。安全な学校とか、快適な学校生活環境であるとかそういうふうなかたちで⑦だと保守点検しやすい学校、そういうかたちの表現をしているところもあります。様々な観点からそれぞれの特徴ある意見等出ておりますので、この辺を参考にしながら皆さんのそれ

それぞれの立場から経験等から、こういう学校がいいのではないかなという意見をいただきたいと思ひます。そしてこの4つがどこに入るか入らないかは後で事務局のほうで割り振りさせるようなかたちにしますので、自由な意見等を取りあえずいただければと思ひます。

委員長

皆さんのほうに今日この資料が配られたということになりますので、読んでいるところもないままに、示されたところもあると思ひますが、皆さんのご意見や思ひを委員全員に聞いていきたいと思ひます。それでよろしいでしょうか。

委員

現在、決定しているところ、場所は九戸中ですか。

事務局

はい、そうです。

委員

完成が34年。

事務局

34年4月1日に開校。

委員

用地は例えば駐車場とかもスクールバスも通ると思ひますし、先生方の駐車場も増えます、小中一緒になれば。そうすると駐車用地も広く取らなければならない。あとはスクールバスも交差するようなかたちになると道路も現状だと狭いですよね。その辺、用地は現状の中で納める考えなのか、用地買収も視野に入れているのか。その用地とかを考えていくと私の頭の中では足りないと思ひます。

委員長

そういった駐車場とかいろんな設備なども必要になってくるだろうということですね。

委員

もう1つ聞きにくいのですが、予算はいくらまでか上限は決めているのですか。

事務局

予算といいますか、国の基準等もありますけれども、とりあえず基準的に坪米あたり25万とかかかっているような感じでは。

委員

その建物だけではなくて、駐車場とか用地買収とかもあれば全体的にいくら予算になるとかありますか。

事務局

その辺も要望を聞きながら、ある程度その要望について、実現できる様なかたちで予算獲得はさせていただきたいと思います。いくらでもいいという訳にはいきませんが。

委員

いくらぐらいかかるか、大体でもいいのですが。

委員

今日は皆さん、顔合わせの状態ですしそこはまだまだもう少し検討していく間に出てくると思いますので、私もその辺はまだ分かりませんが、その辺は教育長さん委員長さんも思っているのではないですか。本当はそれから追っていけばいいと思いますが。

委員

そこが本当は基本だと思います。

委員

今日はおそらく出ないと思います。すいません。次の11月の2回、3回あたりで出てくるのではと思います。

委員

そこは早めに決めておくことが大切だと思います。

委員

確かにそうですね。場所とかその中で納めるのかその辺を進めていくことになると思います。

委員

工法とかもまだ決まっていないのですね。鉄筋コンクリートとか鉄骨だとか、木造だとか。

委員長

まず、駐車場とかそういったところも必要になってくるだろうと、あとはある程度の予算の中で考えていく必要もあるだろうということですね。

委員

今決定しているのは場所と時期ですね。

委員

一般公募のほうでも作文みたいなものを書かせていただいたのですが、木造校舎で建てたほうが良いということで、まず1つはコンクリートが今値上がりしてきているというのがありますし、環境としてはコンクリートよりも木造のほうが成分はわかりませんがいいと聞いています。あと、九戸村は森林に囲まれております葛巻町に大断面集成材をつくる集成材の工場があるので、総コストなどを考えても木造がいい。建物全体の加重も軽いので、地体力が多少弱くても工事費の方である程度大規模な杭工事になってもいいと思います。木造で行きたいということと、断熱性能、〇〇性能、気密性能がしっかりしている、というのは最近エアコンを学校にも付けなさいというようなことが騒がれておりますけれども、木造になると断熱性能もコンクリートより遥かにいいですし、暖房、冷房の効率を考えると木造がいい。先程のお話にもありました人口減少、実際に作る時までにはクラスが減ったり増えたりというのがあったので、木造校舎は結構可変性に富んでいますので、足したり減らしたりというのがRCよりはわりかし楽にできる。そういう構造計算もRCよりは楽に出来るというふうに思っております。今年の4月ぐらいに山林の森林経営管理法というものが可決されて、村の森林を手入れしていかなければいけない、それが3年後に施行ちょっとわからないのですが、この界限から木材がかなり出るだろうと。エネルギーというところで、子どもたちの教育の中の一環で山から循環してエネルギーを使うというシステムを子どもたちに見せたい、石油とかで暖房を取るのではなくて、ウッドボイラーによって暖房したり、電気を発電したりというような設備を整える。そういうことによって九戸村で災害に強い、拠点の準備できると思います。3.11の時に自衛隊の拠点がオドデ館に一旦集まってというようなところがありましたので、この県北の方で災害があった時は九戸が一旦基地になる、学校だとヘリポートも使えますし、例えば電気がなくても薪があれば暖も取れますし、食事も取れる。そういった際の整備も出来るというのが今回の小中というものも大切ですが、災害の拠点というところで災害に強い建物をつくる一方で、九戸から岩手県、もしくは全国に新しいモデルケースとして発信できるのではないかなと思っております。あと海外で教室に二酸化炭素〇〇を付けていたのですが、日本の学校ではないですね。私はよく学校にいくと眠くなるのですが、たぶん酸素が少なくなっているのかなと、先生の授業がつまらないのかなとか。海外の学校は二酸化炭素の濃度が高くなると空気を入れるのが自動回転で空調がすごくしっかりしてしまっていて、二酸化炭素濃度と教育という結びつきはよくは分からないのですが、酸素がある状態で勉強させれば私的にはいいのではないかなと思っておりますので、そういった設備があった方がいいと思います。

委員

ウッドボイラーにして、森林法の改正によって出る薪を買い取ってもらうと言いますか、それを小学校で燃やすことで、木を売れるし、学校でも有効に使えることになります。

委員長

九戸の地場産業に結び付くようなかたちでそういった施設というのも考えていいのではないかなということのようです。それだけではなくて、電気とかガスとかいろんなものもある

と思います。災害といえば電気がストップする、何も出来なくなるという経験をしました。災害に強い多様なエネルギーということも考えていっていてもいいのではないかなということのようでございます。

委員

保護者会のほうで、話があった内容をお話いたします。一番は今から保育園という所から教育の小学校というところに上がるにあたってどうしても人と人との繋がり、友達同士というのがこれまでバラバラだったのが集まるという環境が、保育園から小学校に上がる時もそうなのですが、34年の前の年に入った小学1年生が2年生に上がろうとした時に環境が変わってしまう状況にあるので、そういったところの気持ち、心のケアができるような施設でいいと思いますが、交流できるような施設を備えていただきたいというところ、交流できるというのが小中一環というところで小学生中学生の交流も出来るようなスペースがあればいいのかなと考えております。保護者の中からはどうしても距離が結構あるので通学するにあたって、どのようなかたちになるのかという声が出ていたと思いました。安全な先程道路の話も出ていました。安全に送り届けるような整備を行っていただきたいということです。あと、〇〇さんの方からもありました。エアコンというお話もあり、整備するにあたって、より良い環境をつくってもらいたいということで冷暖房の整った設備を。エアコンだけが良い訳ではないと思うのですが、空調等しっかりした設備になればいいのかなと思います。

委員長

より具体的な部分になってきますけれども、今通学にはバスが何台ぐらい中学校の方は使用しているのですか。

事務局

3台です。

委員長

一体化すればもう少しバスは増えることになりますね。

事務局

中学校は150人前後で3台ですので、250人だと増えていきます。

委員

この前ある程度何台ぐらいかマイクロバスが10台ぐらいとか大体の話をしたことを、今日のメンバーの方はその辺がわからないと思います。だからこういうふうな事までは話がされて、そしてここに臨んでいるということのある程度の説明をしたほうがいいのではないかな。

事務局

バスについては、今小学生254人、実際に34年度になるともう少し減るわけですけど

も、マイクロバスであれば29人乗りですので、約8台とか9台前後。ただ、どの学区から乗車させるかというのもまだ決まっておられませんけれども、保護者の意見としてはほとんどの子どもを乗せてほしいというような意見もありますので、マイクロバスだと7、8台は入ってくるということです。小学校の場合は今の大型バスでは行けない場所というか、こまめに回らなければならないので、そうなった場合には大型と併用してマイクロも使うというようなかたち、場合によっては更に小さいかたちのバスも必要になるということです。台数は入ってくるということになります。

委員長

そういった部分での安全面がやはり保護者としては要望しているところが今述べられておりました。

委員

今の時点であまり詳しいことを言うつもりはないですが、まずケチらない。いい物をつくる。後から足そうなんて考えにならないように最初から思い当たった物は導入した方がいいのではないかと思います。あとは何かあった時に直しやすい構造、特に配管とか埋設管を見つけられないとか何かあった時にここが悪いとわかるような構造がいいのではないかと思います。いろいろ体験してきましたけれども現場でわからないと対処ができないのです。

委員長

九戸村としてはいい物、ケチらないようなかたちでやりたいというご意見ですね。

委員

昔私は運良く勤めていた会社が海外にもあったものですから、海外に赴任した時に小中一環校がわりと世界には多いのです。見てきた中でどういったかたちが、例えば12年の小中一環校ですと建物が8角形になっているのが多い。中国なのですからけれども中国の大連だとかあの辺は8角形、それは風水の関係と後で聞いたのですが、真ん中に集まって毛沢東の思想を勉強しますというのによくやっていました。びっくりしたのがヨーロッパ。例えばフランスとドイツは小中一環校が地下で繋がっているところが多くてどうしてか聞いてみたのですが、これはシェルターだと。そのシェルターはいつ何時どうなるのかわからないからということで用意していると言うのですが、同じようにノルウェーにもあったのですが、その場所で結構生徒さんたちが集まってガヤガヤやっていると、上級生が読み聞かせみたいなのをやっているというので特にノルウェーだったと思うのですが、童話を読み聞かせしているところがあってそこはシェルターでやっていました。そこでは理科の実験をやったり結構地層が固いところでやっていたなというのを見ることがありました。そういうふうなかたちで小中一貫校というのが建物を別々にするのではなくて、一緒になっているところが割りと多かったなというのを見てきました。シンガポールが一番びっくりしたのはビルなのです。1つのビルで何階建てにもなっているのですが、下から下級生上が上級生その上が特待生というかたちになっているところがあって、特待生のところに何があるかといったら住む部屋まで

用意されている。ほとんどがどの部屋でもパソコンが今から 23 年前だったのですけれども全部パソコンをもってやり取りもパソコンで、ネットで繋がっていて例えばネットは小学生が教育委員会みたいな施設に対して書き込みを出来るような仕組みになっていたのを見ました。全然関係ない消防士さんのうちにもネットが繋がっているの、例えばここで子どもが火遊びしていたよ、上級生が火遊びしていたよというのもその消防士さんのところまで繋がるといって全てネット社会というのが今から 23 年前。そういうのをみてきたのですが、九戸がそれをやればいいという訳ではないのですが、さっきの九戸への思いがどこに向かっていくかという所の中で、近代化の意味で取り入れたというふうに思います。

委員長

ありがとうございます。情報化社会できっと子どもたちは AI の時代に入っていくと思います。そういう情報処理に関するそういう知識は小学校から必要になってくるでしょうし、英語をはじめ国際化というところで外の世界と繋がっていくとインターネットの世界にどう充実させていく必要があるだろうというふうなことになると思いますね。

委員

どんなイメージと言ったら、明るくてあったかい雰囲気の良い学校がいいなと思いますし、あとは部屋が広い方がいいなと、うちは 20 名定員の部屋ですが、狭いので少し余裕があった方がいいなと思いました。あと具体的な話をしたいでしょうか、トイレは保育園、洋式なのですが学校に行って和式ということで大変だという、つくる時に和式のトイレもつくってほしいという親さんの意見があったのはききました、1 つぐらい。学校に行くと和式なのでそこを慣れさせるために和式があった方がいいという話は出たような気がしましたが、洋式だけで学校に行ったら和式で、そこが大変だという話がありました。

委員

うちであそこを工事させていただきましたが、和式があるのだから珍しいと思いました。

委員長

そういう日常生活の部分にも色々な配慮が必要になってくるのだと思います。ありがとうございました。

委員

中学校としては使わせていただくという立場から話をさせていただきますと、使いやすい環境がいいと思いますし、掃除も児童生徒がすることを考えると手入れがしやすく長持ちするような、材質の話は先程からお話されて知らないことばかりだったのですが、多く検討いただければなというふうに思います。あとが直しやすいというのは本当にそのとおりだと思います。いくつか学校は見てきた中でどうしても学校を建築すると凝ったデザインとかということがあって、例えば情操教育にいいからガラスを丸くカットしているのは見る分にはいいのですが、壊れた時に直すのが丸いものですから大変だったりとか、ちょっとデザイン

性の高い照明があって、切れたらその辺の電気屋さんでは売っていないような電球だったりとかではちょっと困ると思うので、近くで売っているというのが条件ではないと思いますけれども、汎用性が高いもので実用性を重視していただければなというふうに思います。あとは冷暖房については今お話いただいたことが実現すると本当に素晴らしい名と思うのですが、いい物をつくるのだけれども、コストがかかると何と言いますか、今はもうないかもしれませんが、集中暖房が取り入れられた時期があってその学校さんに行くと、スイッチを押すと学校全部が温くなる、でもここだけ暖めたいということが出来ないということがあって、お金がかかるから暖めるか暖めないかどっちかだという学校がありました。それはいろんな状況を考えてもいいのかもしれないけれども、お金がかかると使えないというふうになりかねないので、使いやすくエコなものというのも、ぜひ検討いただきたいと思います。災害の拠点というお話もそのとおりだと思いますし、九戸中学校は高台にありますので、もしも大きな災害があっても多くの方々が避難して来られても十分一定期間いられるような、極端に言う学校とは関係ないですけれども備蓄等も備えるとかということがあれば大変ありがたいなと思いますし、同時に小学校を1つに集まるということでさびしい思いをする方々も多くいらっしゃると思うので、施設の中で日常的に小中学生だけでなく、一般の方々も足を運べるような部屋とか施設があるとより地域の拠点としての役割が高まるのかなというふうに思います。あとは施設ではないのですが、ちょっと歩かせたいなと中学校担当者としては思っていて、例えばバスを下ろす場所から昇降口までは歩かないと着かないとか、あるいは中学校の広いグラウンドがありますがお金がかかるとは思いますけれども、体育館のギャラリーにランニングレーンがあるとか、運動しやすい環境を整えていただけると大変ありがたいです。小学校さんのランニング大会とかやっているようですが、可能であればマラソンルートがもしも車の走らない所で確保が出来れば、部活動でもそこをランニングすればいいと思いますし高台に車の通行のない敷地にあるので、どういうふうに校舎のレイアウトによりますけれども、外なり中なりにそういう体力づくりのための場所を確保できればありがたいなというふうに思います。

委員長

私も夕方、九戸中学校の方を回らせてもらったのですが、バスが3台ドアからドアという感じでした。そういったところも含めて色々考えていけるのではないかなというところなんです。バスの量も大変多くなっていくということですので。

委員

先程は副会長ということで大任を仰せつかりました。小学校の校長会の会長ということで副会長になったのかなとそういうふうに思っております。小学校的な立場からは私が今までいた学校でこういうのが困ったなという事をお話しますが、デザイン重視の校舎というのは実は非常に使いづらいです。小学校関係で見えていくと新しい学校はすごく、奇麗でとてもいいのです見た目が、でも高い所にはめ殺しの窓がどんどんあってそれを拭こうとしても拭けないのです。だから随分汚い、汚れているなといっても拭けない。この窓は開くのかな、開かない。というのが結構多いです。ですからデザイン重視というよりも使いやすい、実用性

の高いというのが大事かなと思ったりしていました。それから私が校長になった時に先輩に校長として一番大切なことは何でしょうと教を請うたのです。子どもを殺さないこと、学校を燃やさないことと言われました。なるほど、本当にその真髓をついているなど心の底から思ったものです。ですから先程様々な災害の話がありましたが、燃えない学校、火災に強い学校そのために様々な設備というようなことも必要なことかなと思います。それから今の災害のことに関連してですが、安全性ということで不審者の侵入を許さないというふうなことも必要だなと思います。一時期はやったのですが、オープンスペースがあって廊下からどんどん中の様子が見えてすごく開放的でいいわけなのですが、不審者に対しては全くの無防備です。入られたらおしまいですからそういうふうなガードが出来る、強みのあるものにしていく必要がありますし、江刺家小学校の例ですがすごく教室の横が広くて、開放的でいいわけなのですが、ではここで風予防のために加湿をしようしようとかインフルエンザのウィルスが飛びかっているからそこを仕切ろうとかということができないのです。ということでもとても綺麗でデザインもいいけれども、実際のところ防疫上はそんなに良くないと思うところもありますので、そこも考慮したものがあればいいのかなと思っています。それから、冷暖房のことです。冷房のことを最近猛暑ということで着目されているのはご存知だと思いますが、九戸村はやはり寒い地域ですので、教室の中、廊下、体育館様々などところの暖房について、冷房の他に考える必要がありますし、雪も多いですから雪をどうにかする道路、そういうふうなことも考えられるかなと思ったりしています。学校のこれからの様々なかたちでの利用が多くなるかもしれません。ですから、教室を広く変形できるといいますか、ただのパーティションではなくて、壁のだけれども防音性は高いけれどもそこを工夫して広い方にまた組み替えられるみたいな、変形オートじゃないですがそういうことも出来ればいいのかなと思ったりしております。

委員長

ありがとうございます。災害ということであれば、九戸村は大きな災害にあった時はあるのですか。ないですね。岩泉とか軽米というところは台風で水害があったとかそういう話もあります。幸い九戸村はそれほど大きな災害は今までなかったということです。これからどういった災害が起るかわかりませんが、そういった想定されるようなことには対応できるようなかたちで、考えたいということです。

委員

学校施設に携わっている皆さんの意見を聞いているとハッとすることがありました。私は九戸村の学校建設にあたって思うのは、人口減ということで子どもさんたちも確実に減るだろうということで、空き教室という対策としては将来的に何か用途が出来るような学校から例えばコミュニティ施設みたいなところにいけるようなものを見据えた設計が必要だと思います。実はなかなか学校の用途変更といいますか、別の用途にする時には色々な規制がありまして、建築基準法とか消防法とか結構厳しくなるのです。そういうことでなかなか盛岡市の学校も用途変更がなかなか難しいというふうな施設で変更したいけれど次のステップにいけないというふうな学校が多いと思います。だから建設にあたってはそういうふうな将来的

に、もしこの先人口が削減した場合については何かそういうふうな用途に出来るようなところも見据えた設計が望ましいのかなと思っております。あと安全性はしっかりとやると思いますので、これから耐震性というふうなところは確実に今の耐震性よりはアップした、今国の基準であれば20%ぐらいアップして建てるというのが常識です。その辺のところも十分考慮していただければというふうに思います。以上です。

委員長

どうもありがとうございます。

それでは、まとめというかたちになるかもしれませんが、〇〇さんの方からよろしく願いします。

委員

まとめになるかどうかわかりませんが、皆さんそれぞれ、学校に対する要望が出されたわけですが、〇〇さんが言ったように私たちも賛成反対がありまして、最初に大槌に行ってあそこは木造なのです。あそこは震災のお金が国から来たからすぐ出来たようです。十何億と行って集成材でつくってすごく立派で広くて、空間等々が成されていいと思うのですが、ああいうことはうちの方は望めない、あの位はやらなくてもいいと思いますが、確かに木造は良いと思います。それから父兄の皆さんが交流できる場所とかというのが、一環になればそれぞれ大きい部屋があるようです。そこに父兄の皆さんが集まって、色々な交流をしたり何か作ったりする、そういう場所はぜひ必要だと思ってきました。中学校の校長先生がお話したように歩かせるというのは、今の状態だったら中学校の入り口あたりでということかたちでしょうか。危なくない道路をつくって歩かせなければならぬと思っています。あそこをみんな歩かせるのかということは今までもあったし、今も聞こえたりしますが、あとは道路も狭いだろうということで今の道路よりも1mぐらいでも広く出来ればなど、毎日通ってみたりしてそう思っています。皆さんが思っているのは、どの場所に今のスペースで小中をつくるのかということをおも疑問に思っているのですが、今の状態だったら狭すぎるのかなという思いもありますけれども、その辺はまだ公表できないのですか。いくらか拡張するというのはありますか。

事務局

今のところは、山根小学校の方もありますのでそちらの活用も含めたかたちで検討いただきたいと思います。あとは現九戸中学校の体育館等についてもあれを果たして壊すのか、あるいは使ったかたちでまた配置するというのも1つの方法だと思います。

委員

中学校の体育館ですね。あれは使った方がいいと思います。

事務局

その辺も含めたかたちでどういう間取りにするかということです。

委員

中学校の体育館の耐震改修は終わっているのですか。

委員

全部終わっています。ただ、校舎は耐震になっていてまだ15年ぐらいはいいのだけれども、やるのであれば一緒にやっただらいいだろうという声が多くて今そうなったのです。この前、宮城県の方に行って見てきたのが小学校は古い学校に入っていて、小学校に足して中学校が新しくなって小中一貫校ということで。それを見たら中学校を壊さなくてもいいのではないかとそんなことも言いながらきたのですが、そういう学校もあります。本村は前向きに向かっていくべきです。

委員

意見ですが、今までやっぱり仕事をしてきてやっぱり図面を書いて進めてきてもだめな時は後戻りすることも大切です。ただただ最初の目的だけで進むだけがいい結果が出るとは限らないので、皆さん冷静に考えて父兄の方の孫もひ孫も入る学校だと、今の自分の子どもだけではなく、建物というのは建てて終わりではないです。50年も100年も使うものをこれから今建てようと相談しているのだから時間もあれだけれども、じっくり考えていってじいちゃんたちがこれを建てたからといって孫とかひ孫に言ってもらえるような学校をつくりましょう。

委員

私は今の場所等々体育館はそれなりによければ、あとは皆さんそれぞれ要望したことを明るく、住み良い学校ということで進んでいければと思っています。

委員長

どうもありがとうございます。委員の皆さんに今の色々な思いをお話して頂きました。これを事務局で考えておられる4つの柱のコンセプトの中うまく組み込んでいただいて、そして次回あたりに提案ということになりそうです。ではそういうことで、方針を決めていただきたいというふうに考えております。

以上で今日のところの私の役目はこれでよろしいでしょうか。

では、次回の日程の確認をお願いします。

事務局

それでは、次回の日程ということでございます。A4の資料の方の5番ですけれども、日程案ということで第1回が本日ということで第2回の委員会の開催についてですけれども、11月に再度1回委員会を開催するとともに視察ということで学校を、あまり遠くないところですけれども視察をしたいということで考えております。11月の委員会につきましては再来週あたりだと日程の方はいかがでしょうか。仮にその次の週に視察ということになった場合に

視察になると1日がかりになると思います。

委員長

例えば教育視察をやってきてその後に色々とまた検討ということにすれば集まりも度々ではなく1回で済むのではないか。

事務局

11月の中旬に2回目をやって3回目視察の後に検討委員会をやるというのはいかがですか。視察はその予定の学校は検討しております。

事務局

最近の新しい学校だと軽米小学校、木造だと八戸の西白山台小学校があると。小中一環をやっているのだと三戸、こちらは規模が大きいのですが施設をご覧いただきたいと考えております。

委員

平日ですか。

事務局

学校が開いている時、休日ですと外だけは見せてもらえるかもしれませんが、中の方もご覧いただきたいと思いますので平日に。ただ、皆さん一緒に行けるというのは厳しいと思いますけれども、極力皆さんにご覧いただきたいのですが、日程を調整させていただきたいと考えております。普段の会議については7時からということではよろしいですか。では、日程を一旦うちのほうで設定して次回の会議について委員長さんと相談しながら日程を設定させていただき、ご案内を差し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

それでは、決まりましたらば郵送で皆さんのほうにお知らせするということになると思います。予定しておりました議題についてはこれで終わりということになりますが、最後に教育長さんからお願いいたします。

事務局

安全面の部分、使いやすさの部分、将来を見据えたかたちで、今の私たちがまさしく今つくったものが将来に繋がる、未来に繋がるという学校にしていきたいと考えております。今、私たちの方として柱を4つそこに掲げさせていただきました。1つは学習空間、子どもたちが学校で学ぶ空間というのが8割を授業というかたちになります。そして友達との交流をいれることでやっぱりそこで子どもたちの心と接していかなければならない。それから文化という部分から育てていきたいということ。そして、運動させたいということがありましたので体力向上ということで運動空間、そして小中一貫ですので交流空間という4つの

柱を掲げさせていただきました。そしてやはり再編1校それぞれの140年の歴史を閉じる、閉じたらどうしてもやはり九戸村は1つで何も変わりはありませんので、地域が誇れる学校、地域が繋がる学校ということで下の方に歴史を学ぶコミュニティ、そして生涯学習というふうに書かせていただいております。次の会の時に後の方に資料を置いてありますので、こういうものを参考にしながら今日のようなご意見をいただきながら、基本方針を固めてまいりたいとそういうふうに考えております。

事務局

事務局のほうからお知らせがございます。

事務局

この会議についてですけれども、後で会議録とか出た意見等についてはまとめてホームページの方に記載させていただきたいと思います。あと、先程〇〇さんの方からバスの件でちょっとありましたけれども、事務局のほうで皆様の方に情報が伝わっていない部分がありますので、お気づきの点、こういう資料がほしいとかというのがございましたら、お電話いただければ会議の方に提出させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

それでは皆さん、長時間に渡りましてありがとうございました。
以上を持ちまして、第1回の建設等整備委員会を閉じさせていただきます。
ありがとうございました。